昭和39年11月10日第三種郵便物認可　昭和41年4月5日国鉄東局特別扱承認雑誌第2343号　昭和42年5月1日発行第4巻第5号通巻第33号(毎月一回・1日発行)

月刊漫画

ガロ

No.33
1967
5月号

カムイ伝㉙

赤目プロ作品
白土三平

（前回まで）

五代木において生起した**夢屋打ち毀し事件**の発端は、いまは夢屋に人夫として働きながらも、嘗ってはこの港において船をもち、舵を取って漁業を営んでいた人たちの、おのれらの失われた夢と自由奪回のための闘いにあった。彼らは夢屋の商業資本の下で過重労働と低賃金にあえぎながら、再び船を手にし、大海になぶら（魚群）を追ってこぎ出す生き甲斐のある生活を取り戻そうとしたのであった。しかし、この五代木の報が、藩目付役**軍太夫**の耳に届いたときから、事件はすでに変容しつつ意外な方向へと発展しはじめていた。つまり、目付軍太夫は、事件の中心が夢屋であることから、この機を利用して、かねてからの藩内対立勢力**城代家老**の経済的支柱である夢屋を取り潰そうと考えたのであった。この考えから彼は、自ら夢屋追求の指揮に乗り出し、主謀者の摘発につとめるかたわら、夢屋の非を暴くことに積極的であったが、この頃すでに**夢の七兵衛**はどこかへ姿を隠し、打ち毀し騒動の責任者として名乗り出たのは、七兵衛不在の夢屋を預かる**キク**であった。彼女は奉行所の詰問に対して、打ち毀し事件を否定し、実は店舗改築のための取り壊し作業であったと偽証して､危うく責めを逃れ得たかにみえたが､拘置の折に身につけていたクルス(十字架)から彼女自身が禁制の**キリシタン**の身であることが発覚し、事件はここでさらに曲折を加え、軍太夫をして徹底的なキリシタン追求へとかりたてたのであった。

さっそく藩による邪宗門改めが行なわれ、領民は一人残らず踏絵を踏まされた。その結果、領内からおよそ五十人のキリシタンが出た。だが藩では、これらのキリシタンを裁くに当たり、処刑するよりはむしろ転ばせることによって、信者の絶滅をはかった。それは、処刑という方法が、それによってかえって他の信者の信仰心を煽り、新たな入信者の急増をも招きかねないからであった。事実、多くの信者は、おのれの足でマリアを汚すよりは、神を信じ、マリアに接吻して拷問の責苦に耐えることのほうを選んだ。キクもまたその例外ではなかった。彼女は、踏絵のマリア像に向かって深々と頭を垂れ、おのれの熱い唇をそれに捺し当てたのであった。

一方では、夢の七兵衛と**赤目**も、その思惑こそ異なれそれぞれキクを救おうとして奔走していた。夢の七兵衛が金の力で権力に対抗し、武士をも支配するというおのれの夢の追求のかたわら、目付軍太夫の対立者である城代家老を利用してキクの助命運動をすすめるのに対して、赤目は、あくまでもキクの救出を願い、危険をおかしながらもそれを試るのであった。そして、その赤目によって、キクは救出されたが、意外にも当のキクは少しの歓びも見せず、ひたすらな神への意志を赤目に訴えて、おのれはすすんで再び入牢中のキリシタンの仲間のところへ戻って行くのであった。このキクの姿を見て、キリシタンの仲間は、彼女をマリアの再来と仰いだ。それに対して満面憤怒の血を逆上させて虐待の手に烈しさを加える目付軍太夫……。だが、その手も、すでにキリシタンの神とパライゾ（天国）を信じて疑わぬ心には何の効果もなく、まして彼らの、悲痛な、しかし声高らかな祈禱を封じることはできなかった。

こうしたキリシタンの末路は、火刑の定めであった。キクをはじめ、仲間のキリシタンも刑場に設けられた十字架に縛られ、いまにも火をかけられようとしていた。だがキクに向かって役人は言った。お前が転べば、他の者の処刑も許す、と。しかし、キクは首を横に振るだけであった。やがて、十字架につぎつぎ火が放たれていった。

このとき、刑場の矢来を破って、キクを救いに来たのは漁師の**クシロ**であった。さらに、この二人を固めの兵隊たちから護り、刑場から脱出させたのは、あの日置流弓術の名人**左ト伝**と赤目であった。クシロはキクを助け出すことに成功したが、そのために手足を失い、また左ト伝は矢玉によって致命傷を負ってあえなくも絶命して果てた。

危うく処刑からまぬがれたキクに、なおも城代は彼女の棄教をすすめた。彼女が転ぶことによって、他のキリシタンも転び、五代木騒動において捕えられた百姓らも許されるという誓文書を交換条件としてである。ここに至ってキクは、はじめて首肯し、転んだのであった。

やがて、クシロとキクの二人は、五代木の浜のはずれの小島に移り住んで、安住を夢見る生活に入った。だが、この頃にはキクの身体は、烈しい試煉の荒浪と潮風のために急速に蝕まれていた。そしてもはや衰えゆくこのキクの命は、クシロの愛によっても、また嘗ってあれほどその全能を信じていた神の力さえ、それを止めることはできなかった。いわば、神を裏切りながらも、クシロによって幸福を得たとき、それがキクの最期であった。

月刊漫画 **ガロ** 五月号 目次

表紙絵・白土三平

カムイ伝
第29回
赤目プロ作品
白土三平

登場人物

カムイ（非人）
弥助（カムイの父）
ナナ（カムイの姉）
アケミ
ゴン（正助の友人）
正助（元下人、花巻村百姓）
ダンズリ（正助の父）
サエサ（横目の娘）
横目（非人頭）
五郎（竹間沢村百姓）
庄屋（花巻村）
庄屋（竹間沢村）
領主（日置藩）
キギス（横目の下人）
苔丸（元 玉手村百姓・夙谷非人）
小六（狂人）
シブタレ（タレコミ屋）
（城代家老）
目付（橘軍太夫）
蔵屋（藩御用商人）
搦の手風（忍び）
竜之進（元藩次席家老遺児）
右近（浪人）
夢屋（元流人、商人）
笹一角（元、藩剣法指南）
クシロ（漁師）
赤目（抜忍）
左卜伝（忍び、城代の用心棒）
鏡隼人（カムイの分身）

カムイ伝が第1回から入手できます！

愛読者の渇望に応えてバックナンバー再版

第1冊～第3冊(第1回～第6回)頒布中！

非人カムイを絶望的な状況に陥れた因子は何か？
悲劇は、カムイ出生のときすでに始まっていた。
早やも二年余の歳月を数えた白土三平先生畢生の
大作「カムイ伝」を第1回からこの機会にぜひ！

—カムイ伝再版促進会—

カムイ伝の第1回から第10回までを5分冊にして再版しています。第1冊(カムイ伝①②) 第2冊(③④) 第3冊(⑤⑥)は既に頒布中で、第4冊は4月下旬、第5冊は5月下旬に発行の予定です。これは、希望者頒布・限定出版で、書店では発売いたしませんので、再び品切れとならないうちに、今すぐ直接下記へお申込み下さい。未刊分のご予約も受付けております。

頒価 各冊 230円 〒20円（切手も可・但し1割増）

申込先・東京都千代田区神田神保町1－55　**青林堂**内　**カムイ伝再版促進会**

お詫び 第一冊の発行が予定より遅れ、非常にご迷惑をおかけしました。お詫び申し上げます。**カムイ伝再版促進会**

〈ガロ〉特別セール案内

バックナンバーの部

今、全国で爆発的な人気を呼んでいる白土三平の大河マンガ<カムイ伝>は39年12月号から本誌に連載されていますが、これをはじめからお読み下さる方々のために、バックナンバーの特別割引セールを実施中です。

「カムイ伝·在庫セット」

40年10月号～41年7月号

10冊・1組 特価 1,300円

(〒1組・100円)

セットのほかに、41年8月号から42年3月号までの在庫がありますから1冊でも分売いたします。

新刊予約の部

月刊雑誌“**ガロ**”を、**少しでも安く**、しかも**続けて読みたい方々の**ご要望にこたえて、次の通り**特別予約セール**を実施いたしております。

〈Aコース〉　6カ月分予約前納の方には、800円に割引の上、「白土三平傑作選集」(130円) を無料進呈します。

〈Bコース〉　1カ年分予約前納の方には、1,600円に割引の上、「白土三平傑作選集」(300円)を無料進呈します。

★郵便料金の値上げに伴い、今後のご予約には送料(Aコース·100円、Bコース·200円)を申し受けることになりましたのでご諒承下さい。

申込先・東京都千代田区神田神保町1の55　**青　林　堂**

目安箱㉖

『言葉について』

上野昂志

　建国記念日にちなんでＴＢＳテレビが放送した「現代の主役」という番組に、小林郵政大臣がイチャモンをつけたそうである。番組の内容に、思想的偏向があって、大いに遺憾であるということらしい。
　しかし、このことをマスコミが書きたて、方々から批判の声があがっている今、郵政大臣は後悔を感じ始めているかもしれない。無論それは、「言うべきことでないことを言ってしまった」というのではなくて、「もっとうまく圧力をかければよかった」という、方法に対する後悔であるが。ＴＢＳの幹部に直接文句をつけた彼のやり方は、支配の一翼を荷う者としては、やや軽率に過ぎた。現在では、そんな悪役を自ら買うような、念入りなトンマは、大成しないことになっている。「自主規制」とやらいう便利な方法もあるし、スポンサーを一寸つつくこともできるし、又、財界のモニターにしゃべらせることもできたはずである。そして、フィルムを闇から闇にほうむり去るといった器用な手品でもしてみせれば、権力者の覚えもめでたく次期総裁候補ぐらいにはなれたかもしれないのに、惜しいことをしちゃったねえ、小林君。
　ところで、この事件は、少しでも「実力者」になりたいという一大臣の願望のお陰で、私たちの前に露骨な形で登場してきたが、実際は眼には見えないような形で様々な圧力がかかっているはずである。又、問題になったようなマジメな番組では、圧力に対する批判が即座にあらわれるが、そのような批判を期待できないようなものもある。「健全なる常識」におさまりきれないような「白痴番組」などは、圧力をかけられても泣き寝入りするほかないであろう。あるいは、支配の圧力の実例のひとつとしての程度にはとりあげてもらえるかもしれないが、それ以上の擁護は期待できないであろう。即ち、圧力を批判する側も又、圧力者と同程度の「健全なる常識」しかもちあわせていないという場合がままあるのだ。（くわしくは『ガロ』'66年9月号で述べた）。例えば、これは放送番組の場合ではないが、建国記念日の制定の際の革新陣営の反対意見などによくあらわれている。それはついに月日の次元でしか反対しなかった。建国記念日を制定すること自体に対する反対はなかった。「自分の誕生日があるんだから、自分の国にだってあったっていいはずだ」などという甘ったれた、それでいて「常識」に根深く浸み込んでいる幻想を否定することをしなかった。否、彼らも又、そのような「常識」しか持ち合わせていなかったのだろう。支配の論理は、私たちの日常的な感覚の中にも浸みこんで、私たちの行動を内側からも規制している。自分の言葉、私の信念、などとオメデタクかつぎまわってはいけない。無意識のうちに体制の願望を語っていることがあるのだ。

　「そぞろ歩きは軟派でも心にゃ硬派の血が通う」という歌の文句は、日本のアウトロー（法からはずれた者）の「常識」を見事に射あてているような気がしてならない。ヤサグレの「流れ者」でも、「俺は本当はマジ

メなんだ」と考えている世間的な「常識」の持ち主に過ぎないことを、この歌の文句は示している（歌自体のよし悪しは別にして）。どうして「軟派」に徹してしまわないのか。ヤサグレは、自分をはじきだした世間、「常識」などとすっぱり手を切って、ヤサグレの論理を築きあげるべきではなかったか。私は彼らが「そぞろ歩きは硬派でも心にゃ軟派の血が通う」と歌いだす時、声を合わせたいと考えているのだが。

ところで、「朝日ジャーナル」の2月19日号で、梅田正己という人が「高校生の天皇・民族・国家観」という文章を書いている。

「私たちは、もう一度初めから民主主義について考えなおさなければならないと思います。誰にでも理解できるように、皆が足並そろえて大きな目標に向かって行けるように。そして、〃朝日ににほふ山桜花〃の精神を誇れる民族になるため」

「戦後の日本の復興は西ドイツとともに世界の一大驚異とされている。たしかに僕の考えでは、いまや日本はアメリカに追いつき、ヨーロッパを追いこしたと思う。……中略……次に、国民として、正しい愛国心をもつこと、真の愛国心とは自国の価値をいっそう高めようとする心がけであり、努力である。そのことで日本人としてほこりを持っていることである。」

これらは、静岡県のある普通高校二年生の作文である。題は「日本人」。

「つい最近までは天皇がにくかった。貧しい私達からのお金をとり、親善だなんていって外国旅行をしているのだから。でも今は世界史を習い、やはり天皇がいるからこそ、日本があり、歴史があると思う。もし天皇がいなかったら、これ以上、上の人達はかって気ままなことをすると思う。天皇はアクセサリーであっても、アクセサリーにない強い力がある。」（定時制高校女生徒）

思わず「これ、本気？」と聞きたくなってしまうが、本気であろうとなかろうと一度紙に書きつけてしまえば、書かれた言葉が書いた人間をしばりつけてしまうのだ。そこに言葉の力がある。だがそれにしても、「日本はアメリカに追いつき、ヨーロッパを追いこした」なんてことを信じているのだろうか。一体自分たちの生活の貧しさに気付いていないのだろうか。具体的な事柄についてひとつひとつ問いただしてみたら、彼らは現実に対する無知をさらけだすだけであろう。それは単に知識がないということではなくて、現実感覚さえ持ち合わせていないということである。だが、彼らとても彼らなりの生活をしているはずだ。そこにはドライヤーもあれば、Gパンもあるだろう。欲しいレコードが手に入らないのを嘆くような感覚も持っているだろう。ところが、そのような現実感覚のかけらすらこの作文には見られない。ただ言葉だけがずるずるつながっているだけだ。ここにひとつの頽廃がある。

自分の現実感覚、現実認識によって書いていないとすれば、言葉だけを外から受けとって書きつけていることに他ならないのだが、問題は、それが外から与えられたものだなどということを少しも自覚していない点にある。虚偽を虚偽としてとらえるところに真実があるのだろうが、ここにはそのような懐疑精神は全くない。自分の現実から遠い虚偽の言葉を真実であるかのように信じこんで書いた高校生たちは、今度は言葉から復讐をうけるはずだ。即ち、これから後は、書いた言葉を基底にして考え、生活するようになる。この次、国についてしゃべる時、彼らは今と同じ内容をもっと自分の言葉で表現するようになるだろう。そしてその時、言葉の空虚さが彼らの生活をつりあげているのだ。彼らは即席ラーメンをすすりながら、日本の繁栄は驚異的だなどとつぶやくだろう。彼らは、そうなった時、影を持った実在ではなくなっているはずである。

（67年2月24日）

白土三平の秀作短篇11篇を収載！

忍法秘話 別冊

「ガロ」保存版

くの一の術を使う赤目の観世音とは!?

ケシの花はなぜ美しゅうござる
魔物が化粧して美しゅうなってござる……
ケシの花はなぜ赤うござる
人の血を吸うて赤うなってござる……
（「傀儡がえし」より）

●収載作品
ざしきわらし　赤い竹　陽忍　くぐつ
傀儡がえし　無名　無三四　鬼（三話）
妙活　スガルの死　幻の犬

B5判・上製本・三〇七頁
送料特別サービス　定価三〇〇円

残部僅少！

東京都千代田区神田神保町1の55　青林堂

戦後漫画に挑む研究評論誌

漫画主義 創刊号

日本人的庶民の笑い
水木しげる論　石子順造

■特集・つげ義春■
子どもマンガにおける生の論理　梶井純
希望の始まりとは何か　菊地朝次郎
作品とプロフィール　桜井昌一
「沼」は沈黙する　古田次郎

被害者意識の破局と勝利
佐藤まさあき論　権藤普

●水木しげる全作品リスト
●佐藤まさあき全作品リスト

<150円・発売中>

購読ご希望の方は誌代を添えて下記あてお申し込み下さい
東京都新宿区十二社420　鹿又アパート　漫画主義発行所

新人作家募集!!

「ガロ」編集部では、優秀な新人作家を募集しています。どしどしご応募下さい。

——〈作品投稿規定〉——

① 題材・テーマ・モチーフ・枚数自由。
② 作品の独創性を第一とする。
③ なるべくB3判の紙に、必ずタテ27.3cmヨコ18.2cmに書くこと。コマ取り自由。
④ 墨汁または製図用黒インキを使用し、ウス墨やウス色はつけない。
⑤ セリフなどの文字は、エンピツで一字一字正しく読みやすく書くこと。
⑥ 締切日は設けず、到着次第「ガロ」編集部において審査する。
⑦ 入選作品は「ガロ」誌上に掲載し、原稿料を支払う。入選作品の版権は、青林堂に帰属する。
⑧ 応募原稿は一切返却しない。
⑨ 送り先は、東京都神田神保町1の55
株式会社青林堂「ガロ」編集部